



令和5年度
ナナイロひだかサポーター制度

活動報告会

令和5年11月28日
日高合同庁舎 4階講堂



制度概要



①ナナイロひだかサポーター制度とは

ナナイロひだかサポーター制度は、
地域や社会が抱える課題解決を目指し、
令和4年度に創設しました

当制度は地域・社会貢献活動へ
積極的に参加したい振興局職員を
「ナナイロひだかサポーター」として任命
し、活動をしています



②本制度における地域・社会貢献活動とは

(1) 副業 ー報酬を得て一次産業に従事ー

振興局長から許可を得た職員が、
日高地域の人手不足に悩む一次産業に
報酬を得て従事することで
地域貢献する取組



②本制度における地域・社会貢献活動とは

(2) 魅力発信－「ひだかの魅力」を発信－

日高地域の食・観光地・豊かな自然等の
様々な魅力を SNS投稿やイベントを
通じて発信する ことで関係人口の増加や
地域ブランドの確立を目指す取組



③背景

- 全国的に副業を認める企業や団体が増加している
- 公務員も副業が認められる環境整備が整ってきている
- 日高地域の一次産業における働き手不足という重要課題が深刻化している



③背景

副業を実施している自治体(振興局調べ)

★全国55団体

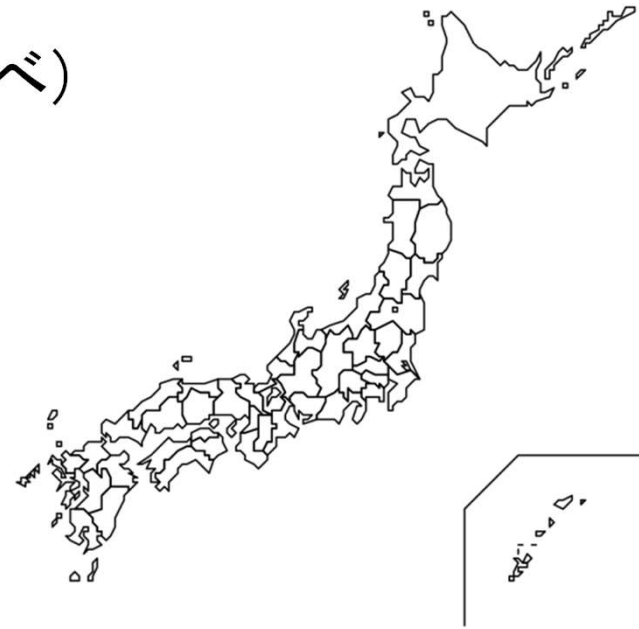
★道内15団体

【北海道】

日高振興局、留萌振興局

【市町村】

深川市、鹿部町、留寿都村、共和町、沼田町、増毛町、
初山別村、様似町、えりも町、新得町、清水町、池田町、
浜中町





③背景

先進事例①

奈良県生駒市

- 2017年の制度導入以来継続的に実績あり
- 小学校のクラブチームや中学校の部活の指導に従事している
- 人事戦略の一環として実施



③背景

先進事例②

青森県弘前市

- 2021年にりんご生産アルバイトに特化して許可基準を明確化
- 特定産業に絞った推進事例として先進的
- 市が開設する無料職業紹介所を活用したマッチングスキーム



③背景

先進事例③

山形県

- 2022年の制度導入初年度から40人の職員がさくらんぼ作業に従事
- 県としてデイワークを活用したマッチングスキームを構築
- 広域行政としての活動により、県内の自治体にも広がりを見せている



④効果

事業者

- 繁忙期の労働力確保
- 負担減による時間の有効活用

職員

- 新たな地域の実態・魅力発見
- 地域社会・住民との新たなつながり



地域貢献をしながら、新たな知見・ネットワークを獲得し、道職員としての価値観の幅を広げることに寄与できる。



申請手続

ナナイロひだかサポーター制度の申請手続



ナナイロひだかサポーター登録までの流れ



Check!!

各所属長は部下職員の業務内容や体調を考慮して判断
地域貢献活動にふさわしくない行動等があった場合は
地域政策課長がサポーターの登録を取り消すことができる

ナナイロひだかサポーター制度の申請手続



副業までの流れ



①登録



北海道短期お仕事情報サイト
(道経済部運営)



農業アルバイトアプリ
デイワーク

②閲覧



日高振興局員



地域政策課

- ・局内のシフト調整
- ・一次事業者との調整
- ・実績のとりまとめ
- ・他地域への普及

承認

⑤承認



日高振興局長

④申請



所属長

承認

ナナイロひだかサポーター制度の留意事項



労働時間の制限

平日(通常勤務日)	一週間	一ヵ月
3時間以下	8時間以下	30時間以下

事業者の制限

活動先の事業者との間に利害関係がある場合は不可

所属部署によって一律に禁止するものではなく、利害関係の有無について都度所属長が判断する

副業の制限

本業に支障が出ていると所属長が判断した場合は不認可

サポーターへの申請及び営利企業等従事許可申請の際に所属長の確認を必要としている



活動内容

ナナイロひだかサポーター制度の取組



サポーター任命式

ナナイロひだかサポーター制度の取組



ナナイロひだかサポーター制度の取組



副業（夏いちご）

ナナイロひだかサポーター制度の取組



副業 (夏いちご)

ナナイロひだかサポーター制度の取組



副業（日高昆布）

ナナイロひだかサポーター制度の取組



副業（日高昆布）

ナナイロひだかサポーター制度の取組



副業（日高昆布）

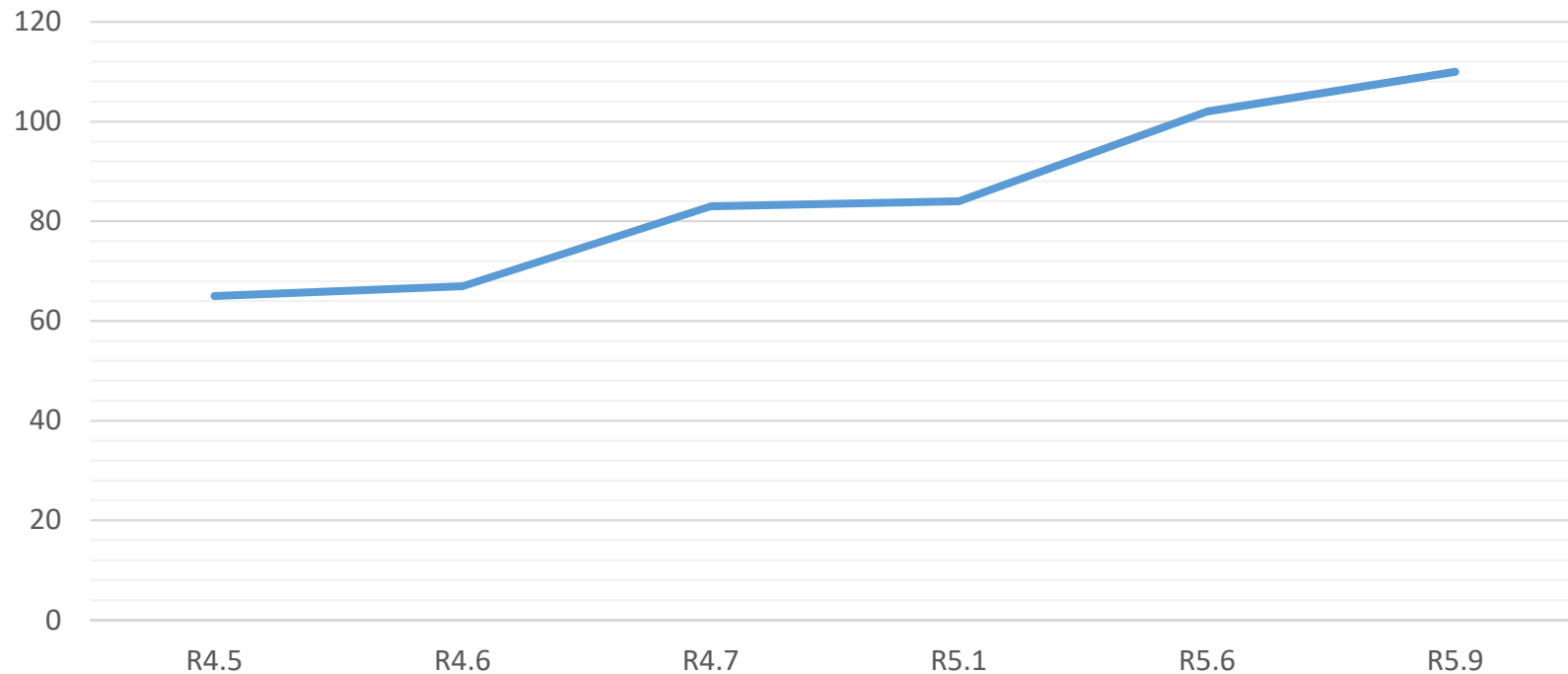


活動実績

ナナイロひだかサポーター登録者



65名(制度開始当初) → **110名(R5)** (45名増)





副業従事者数

17名(R4) → **36名(R5)** 19名増

-従事内容内訳-

R4 (延べ人数)		R5 (延べ人数)	
夏イチゴの収穫	11名	夏イチゴの収穫	24名(前年比+13)
昆布干し	12名	昆布干し	23名(前年比+11)

※うち6名は両方に従事

※うち11名は両方に従事



7 事業者とマッチング成立

農業

- ・いちご農園事業者①（浦河町）
- ・いちご農園事業者②（浦河町）★
- ・いちご農園事業者③（浦河町）★
- ・いちご農園事業者④（様似町）★

漁業

- ・昆布漁事業者①（浦河町）
- ・昆布漁事業者②（浦河町）★
- ・昆布漁事業者③（浦河町）★

5者増

※いちご農園事業者④は事業者都合により活動実績なし
※★はR5新規事業者



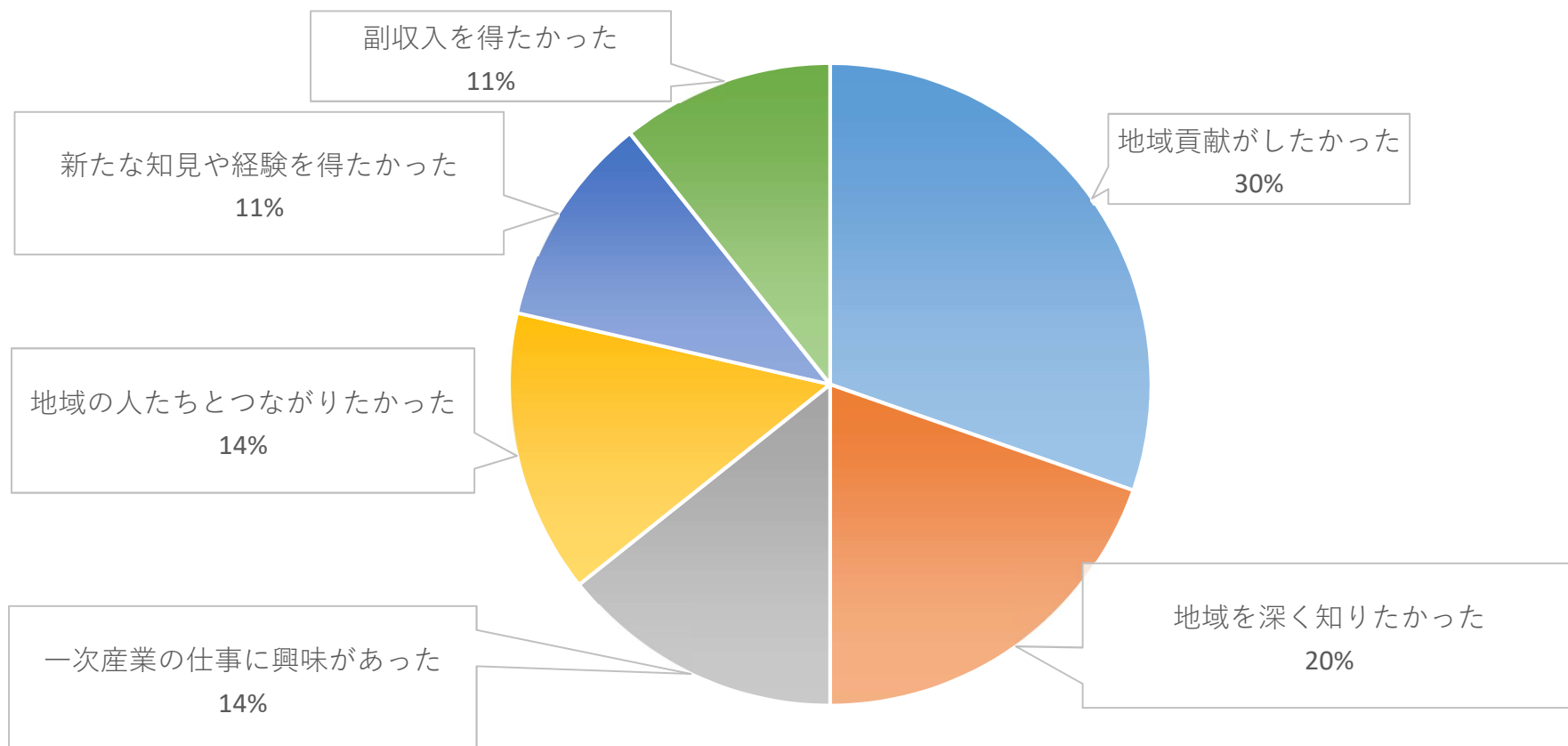
局内向けアンケート結果

局内向けアンケート結果

サポーター向け調査結果



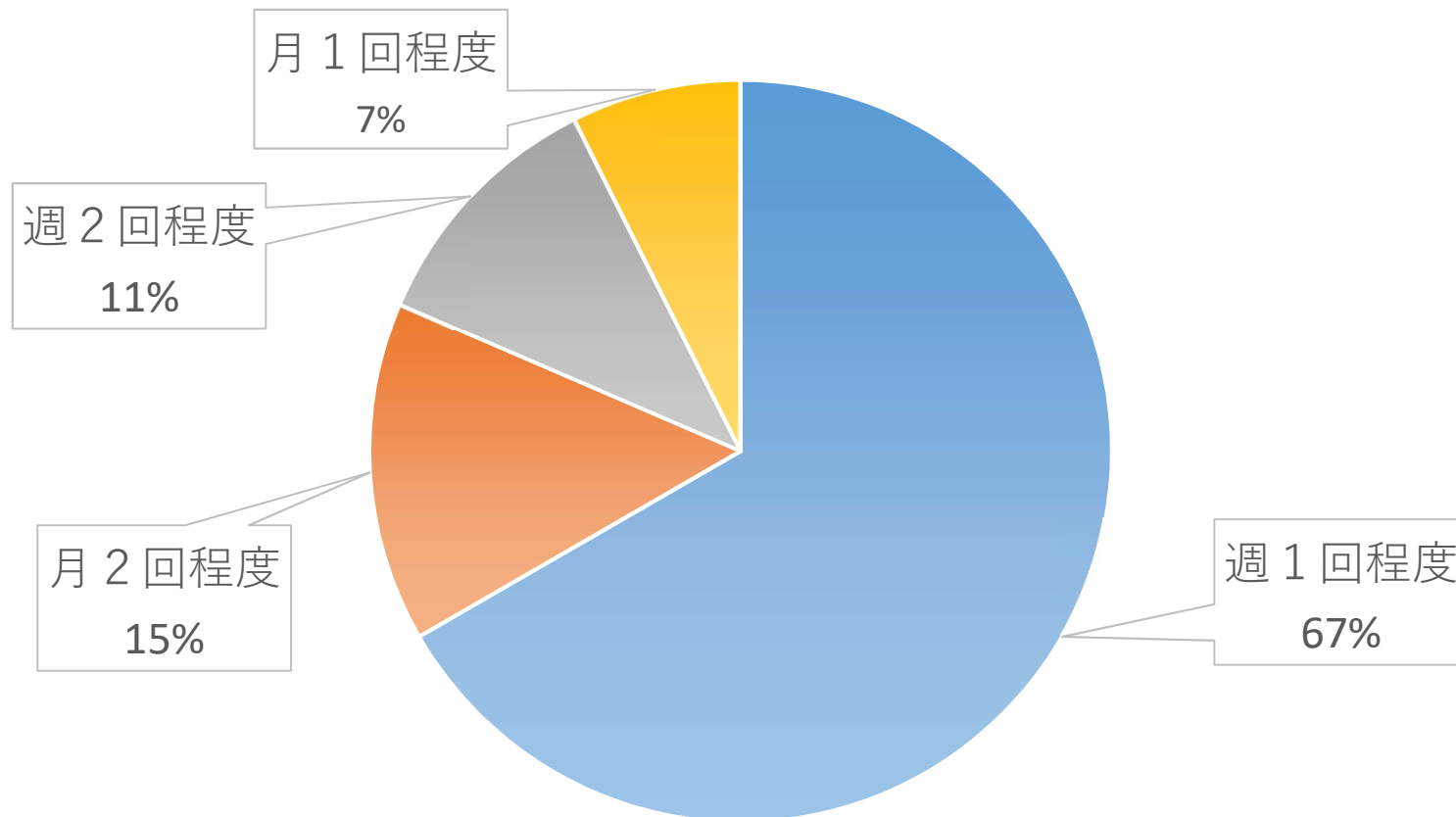
(1) 副業に従事しようと思った動機について



サポーター向け調査結果



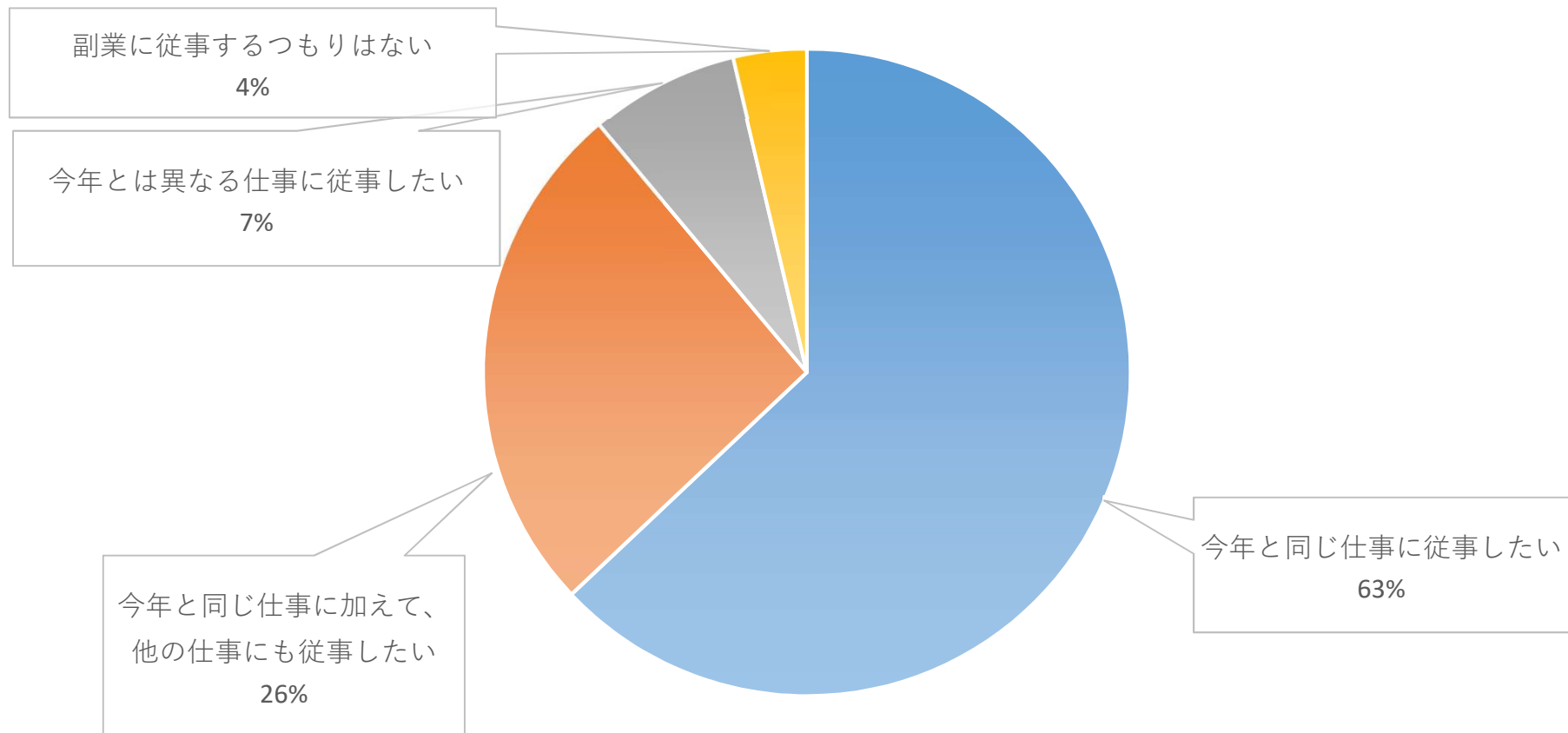
(2) 副業に従事する理想の頻度について





サポーター向け調査結果

(3) 来年度の副業従事希望について



局内向けアンケート結果

サポーター向け調査結果のポイント



- 副業に従事しようと思った動機は 「地域貢献がしたかったから」との回答が最多数であった
- 副業に従事する頻度としては、「週1回程度」がちょうど良いとの回答が7割であった
- 来年度も日高振興局に所属すると想定した場合、今年と同じ業種の副業がしたいと回答した職員は9割であった

局内向けアンケート結果

サポーター向け調査結果のポイント



- 受け入れ事業者がフレンドリーであったため、作業がしやすかった
- 振興局内の業務で関わることのない職員との交流を作れる良い機会であった
- 実際に従事すると朝早くから作業をしている一次産業事業者への感謝の気持ちが芽生えた
- 普段運動をする機会がないので健康増進に繋がると感じた



管理職向け調査結果のポイント

- 「所属職員の副業による業務への支障の有無」については、全員が「支障は出ていない」と回答した
- 「副業に従事した職員の公務執行能力への影響」では「変わらない」が9割を占めた



管理職向け調査結果のポイント

- 今まで縁の無かった土地に配属された若手職員は地域に溶け込める良い機会であると感じた
- 地域の産業や通常業務に関わりの無い分野の知見を広げられることはメリットである
- 若手職員は自分自身の業務マネジメントを管理できるようになってからでないと事業者の期待に応えるため無理をしてしまう場合があるのではないかと感じた



事業者向けアンケート結果



事業者向け調査結果のポイント

- 「本制度を利用しようと思った理由」では、
「繁忙期の人手が必要だったから」「振興局の職員と関わってみたかったから」という回答があった
- 「サポーター制度を利用した効果」では、
「人手不足が解消された」「人手不足が解消はされないが緩和された」「作業効率が上がった」という回答があった



課題点



サポーターの全体数に対する実働人数が少ない

- サポーター登録者110名に対して、
実働に至った職員は36名（32.7%）であった
- 事業者からの求人数に対して、
日にちによっては対応できない場合があった



手続きが煩雑であるとの意見があった

- 事業者からの求人に対するシフト調整を自前で行っているため、煩雑に感じるとの意見があった
- 天候によって出勤の要否や勤務時間が当日にならないとわからないことが副業に従事する弊害になるとの意見があった
- 副業従事に必要である申請や報告が多く、面倒だという意見があった



マッチングが成立しない距離的問題

- 副業の実績があった6事業者はいずれも浦河町内で振興局近郊の事業者であった
- 他町も行ってみたいとの声があったが、シフト制となると現実的に厳しく、マッチングに至りづらかった



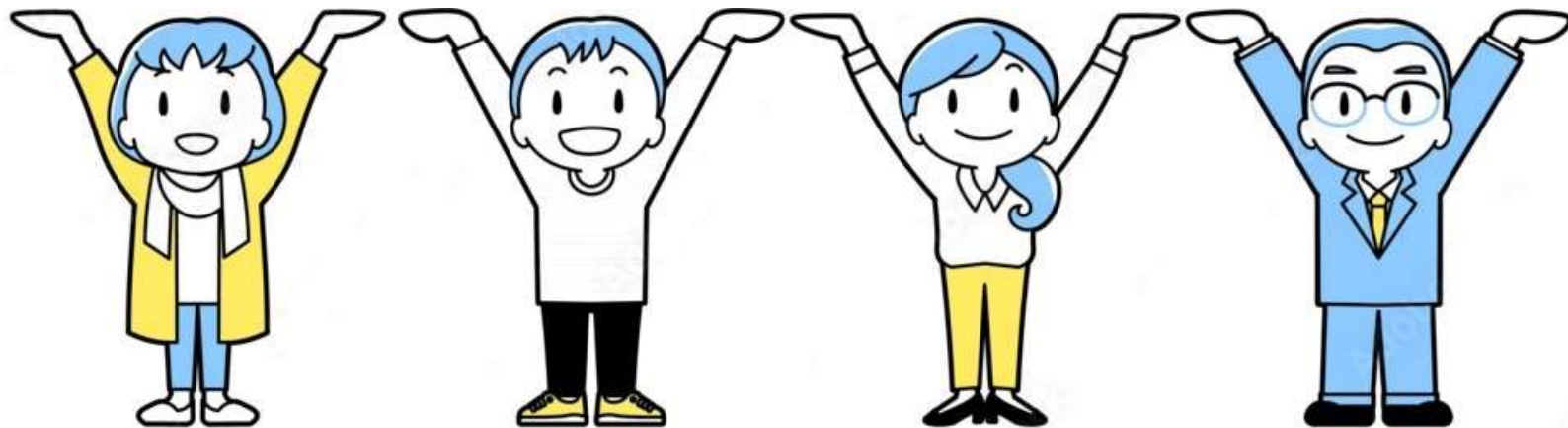
今後の展望

—ひだか地域の課題解決に向けて—



みんなで支える「持続可能な地域づくり」

日高地域の重要課題



地域おこし協力隊

広域連携

副業

官民連携

移住・ワーケーション

農福連携

高校生・若者